

科目名		病態解析演習	教員名	窪田 哲朗	学科等	臨床検査	必修	履修年次	3
(科目番号)		(時間割参照)			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
					授業形態	演習	オフィスアワー	火1・B 203研究室	
授業概要		学内実習で習得した数値、画像、形態などより、検査結果と病態との関係を明確にする。また、異常検査結果、偽陽性、偽陰性の発生する要因となる因子を解析し、より正確な検査結果が得られるための必要条件などについて検証させる。							
目的・目標		目的: 正確な臨床検査データを適切に提供することが臨床検査技師の役割である。適切な診断と治療のために検査で得られた生体情報を用いて、推測される疾患の病態を理解する。 目標: ①検査結果と病態の特性を理解できる。 ②異常検査結果、偽陽性、偽陰性の発生する要因を解析し、正確な検査結果の条件を理解できる。							
準備学習		毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容						
	1	臨床化学検査等のデータをもとにした症例検討－1	到達目標: 当該症例の検査結果から病態把握や臓器障害の有無を検討する習慣を身につける。 学習内容: Reversed Clinicopathological Conference (R-CPC) 形式の授業により、提示された循環器疾患の症例について、その検査結果のみで病態把握や臓器傷害の有無を検討する方法を学ぶ。						
	2	尿定性検査データと尿沈渣所見からの症例検討	到達目標: 尿試験紙法と尿沈渣鏡検結果の突合せから、測定結果の妥当性を評価し、偽陽性や偽陰性の可能性を見出すことができる。 学習内容: 尿一般検査データが示す各種病態について学ぶ。						
	3	検体のグラム染色からみた症例の解釈－2	到達目標: 各症例検体のグラム染色の特徴について理解する。 学習内容: 具体的な症例について起因菌を特定する方法を学習する。						
	4	生理機能検査等のデータをもとにした症例検討－1	到達目標: 検査結果と病態との関連を解析・考察し、症例の病態生理を理解する。 学習内容: 生理機能検査結果から症例の病態生理について学習する。						
	5	血液検査等のデータをもとに症例検討－1	到達目標: 血液疾患について血液検査データから病態解析へのアプローチを学修する。 学習内容: 血液疾患の症例について、血液検査データを提示し、病名を推測し、解析経過・結果・考察する。						
	6	中間試験(1)とその解説	到達目標: これまでに扱った病態に関連する臨床検査の方法と結果の解釈を説明できる。 学習内容: これまでに扱った病態に関連する知識を身に付けたか評価する。						
	7	臨床化学検査等のデータをもとにした症例検討－2	到達目標: 当該症例の検査結果から病態把握や臓器障害の有無を検討する習慣を身につける。 学習内容: 内分泌疾患の症例を提示して、R-CPCにより検査結果から病態把握や臓器傷害の有無を検討する方法を学ぶ。						
	8	病理検査等のデータをもとにした症例の検討－1	到達目標: 各種症例を病理検査結果からアプローチする病態解析法を身につける。 学習内容: 各種症例を病理検査結果からアプローチする病態解析法を学習する。						
	9	検体のグラム染色からみた症例の解釈－2	到達目標: 各症例検体のグラム染色の特徴について理解する。 学習内容: 具体的な症例について起因菌を特定する方法を学習する。						
	10	電気泳動像からの症例検討	到達目標: 泳動像から考えられる病態や疾患を判読できる。 学習内容: 蛋白分画、酵素アイソザイム、リポ蛋白分画の泳動像を復習する。						
	11	中間試験(2)とその解説	到達目標: これまでに扱った病態に関連する臨床検査の方法と結果の解釈を説明できる。 学習内容: これまでに扱った病態に関連する知識を身に付けたか評価する。						
	12	血液検査等のデータをもとに症例検討－2	到達目標: 血液疾患について血液検査データから病態解析へのアプローチを学修する。 学習内容: 血液疾患の症例について、血液検査データを提示し、病名を推測し、解析経過・結果・考察する。						
	13	生理機能検査等のデータをもとにした症例検討－2	到達目標: 検査結果と病態との関連を解析・考察し、症例の病態生理を理解する。 学習内容: 生理機能検査結果から症例の病態生理について学習する。						
	14	病理検査等のデータをもとにした症例の検討－2	到達目標: 各種症例を病理検査結果からアプローチする病態解析法を身につける。 学習内容: 各種症例を病理検査結果からアプローチする病態解析法を学習する。						
15	遺伝子検査の解釈と症例検討	到達目標: 遺伝子検査を行う背景と疾患における特定の遺伝子の働きを理解し、データの結果の解釈・考察をすることができる。 学習内容: 遺伝子検査の症例について学修する。							
成績評価の方法・基準									
教科書		下記のように「検査診断学演習」のシラバスを参照してください。							
参考図書									
教員からのメッセージ		この科目に対応する新カリ科目である「検査診断学演習」を履修してください。							